

令和5年度 自己評価報告書

学校法人 平成国際学園

長崎医療こども専門学校

1. はじめに

本校は、学校運営における具体的な方針や対応の決定に関しては、運営陣と各教職員との風通しの良い環境と体制において行なっており、その中で、学校の質の向上及び教育力の向上に取り組んでいます。

本年度は、原点回帰として「教職員による自己評価」を例年以上に深掘りし、結果を基にその背景や原因を分析することとしました。また、学科・部署ごとの重点目標の設定と達成状況の確認を行ない、次回の学生による授業評価及び学校満足度評価や保護者ならびに卒業生からの評価に活かすことといたしました。

それらの結果から学校経営上の問題点を抽出し、改善に取り組み、学生及び教職員の満足度を高め、よりよい教育サービスを提供して、即戦力となる学生を社会に輩出して参ります。

2. 各評価項目について

本年度は以下の区分に分けて評価を実施しました。

学校の教育目標

(1) 教育方針

- 一 長崎の人材を長崎の当校で育成し、主に長崎で就業させる
- 二 優れた人材を育成し地域に貢献する
- 三 医療・福祉機関として、「おもてなし」の心を持った学生を育成する

(2) 教育目標

- 一 人間力の向上
- 二 国家資格・各種資格の取得
- 三 専門的な知識・技術の習得

本年度の重点目標

(1) 学校全体の重点目標

教育方針及び教育目標に基づき、より職業教育の充実を実践し、次の学習効果を目指す。

- ①学生全員の就職及び進学の実現に努める。
- ②学生の国家試験及び資格取得の向上を目指す。
- ③学生の中途退学者の低減に努める。

(2) 各学科・部署ごとの重点目標

自己評価

(1) 教職員による自己評価

(2) 学生からの授業評価（令和6年度実施へ見送り）

(3) 学生の学校満足度評価（令和6年6月実施へ見送り）

- (4) 卒業生の卒後評価（令和6年7月実施へ見送り）
- (5) 保護者に対するアンケート調査（令和6年7月実施へ見送り）

3. 評価結果について

(1) 重点目標の達成状況

学校全体の重点目標について、各学科・部署ごとに目標を設定し、その達成状況を確認しました。

① 学生全員の就職及び進学の実現に努める。

柔道整復師科は、国家試験の発表後に就職活動に入るが、現段階で就職内定をもらっているものもいます。また、他の学科においてはほぼ全員の就職内定をいただいています。

② 学生の国家試験及び資格取得の向上を目指す。

本年度の柔道整復師科の国家試験の合格発表はまだですが、前年度・前々年度対比では、現役生の合格率は上がったものの、既卒者の合格率が下がっていますので、今年こそは前年度比を上げる事を目指す。他の学科については目標に達することができなかった学科もあります。

③ 学生の中途退学者の低減に努める。

ほとんどの学科が中途退学者ゼロを目標に掲げましたが、各学科ともに数名の退学者が出ております。日本人学科では、退学者は前年度を下回っていました。

また、留学生学科の退学者数は多いですが、進路変更による進学や就職、家族滞在ビザへの切り替え、帰国した学生がほとんどです。

(2) 自己評価

○教職員による自己評価

昨年度に引き続き、専修学校における学校評価ガイドライン(平成25年3月 文部科学省 生涯学習政策局)の評価項目に基づいて教職員による自己評価を行いました。

昨年と同様に問題点として捉える基準を7割(2.8ポイント)に設定し、それを下回る評価項目に関して改善に取り組んでいきます。

下記に、該当項目とポイントを列挙しています。

評 価 項 目	ポイント
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	2.75
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	2.75
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	2.75

・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	2.75
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	2.75
・自己評価結果を公開しているか	2.75
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	2.75
・学生の生活環境への支援は行われているか	2.73
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	2.70
・財務について会計監査が適正に行われているか	2.68
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	2.68
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・学生関係業界・保護者等に周知がなされているか	2.63
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また有効に機能しているか	2.63
・退学率の低減が図られているか	2.63
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	2.63
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	2.60
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	2.60
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	2.60
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	2.60
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	2.58
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2.58
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	2.58
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2.58
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	2.58
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	2.55
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2.55
・卒業生への支援体制はあるか	2.55
・授業評価の実施・評価体制はあるか・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	2.53
・保護者と適切に連携しているか	2.53
・防災に対する体制は整備されているか	2.53
・財務情報公開の体制整備はできているか	2.50
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2.50
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積	2.50

極的に実施しているか	
・ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	2. 48
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	2. 48
・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2. 45
・ 学修成果が国内外で評価される取組を行っているか	2. 45
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成 など資質向上のための取組が行われているか	2. 28
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	2. 25
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	2. 20
・ 関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等が行われているか	2. 13

4. 教職員・学生・保護者・卒業生からの意見・要望等への改善について

各々からの意見・要望等を少しでも多く拾い上げ、来年度の学校運営に向けて、可能な限り改善を図ってまいります。

5. さいごに

少子化による18歳人口の減少に加え、若者の県外流出が多いというネガティブな背景の中で、今後も「選ばれる学校」として運営を継続していくためには、教育内容・学習環境・教育力（教員という人的資源）をより強化し整備していくほかにはないと考えます。世の中がコロナ禍から一定程度落ち着きを取り戻し、同時にAIやIoTが目まぐるしく進化し、求められるものも変化してきています。また、本校は再来年には学校創立40周年の節目を迎えます。そこで、今一度原点回帰して自らを見つめ直し、改善・改革を行なうために今回の自己評価を起点として取り組んでまいります。

以上